

第3年1組 社会科授業案

授業者 加藤 昌代

場所 3の1教室

1 単元名 農家の仕事 ~大葉を育てる農家~

2 単元の目標

- ・ 大葉農家の方の努力や工夫、地域とのつながり、地域の農業のあり方についての農家の方の願いを理解することができる。(知識・技能)
- ・ 大葉農家では、様々な工夫や努力により、おいしく安全な農産物を生産していることについて考え、適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- ・ 大葉作りについて意欲的に調べ、農家の人の仕事と自分たちの生活とのつながりを考えようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元設定の理由

本校の周りには畑やビニールハウスが多く、子どもたちはその中を登下校してくる。しかし、そこでどのような作物が作られているかを知っている子は少ない。本学級の児童は、外国籍の子も多く、学校と自分の家を往復するのみで地域のことを知らない子が多い。畑やビニールハウスが見慣れた景色ではあるが、農家の仕事について意識することはあまりなかったであろうと思われる。本単元において、身近で行われている大葉作りの過程を学ぶことを通して、自分たちの住む地域をより深く見つめ、考えていこうとする意欲を育てていくことが大切であると考え。前単元の「店ではたらく人」でコンビニエンスストアに見学に行った際、見学前に予想したことを確認したり、新たな疑問をもって学習に取り組んだりすることができた。見学や質問を通して、一人一人が発言する機会も多くもつことができた。

本学級の子どもたちは、社会科の学習が好きと答える子が24人中21人と多い。理由は、見学に行ったり、調べたりしていろいろわかるからということである。反面、社会科の授業に限らず、発表が苦手な子も多い。自分の考えに自信がもてず、間違えることを恥ずかしいと感じ、挙手をすることを躊躇している様子である。また、外国籍の子どもで日本語の表現が十分にできない子もいる。そのため授業では、個人個人が受け身の姿勢で学習していることが多くなっている状況である。

そこで本単元では、子どもたちが活発に発表できるような授業にしたいと考え、大葉農家の仕事やそこで働く方の思いについて、具体物を多く提示することにした。まずは子どもが「もっと見つけたい」とか「おもしろそう」と思えるような資料を精選し、提示の仕方や発問を工夫する。小グループや全体で自分の意見や考えを話したり、友達の意見を聞いたりすることで、みんなで学習する楽しさを感じてほしい。さらに、教師から教えてもらうのではなく、子どもたちが自分で調べ、見つけ、みんなで話し合うことで学習を深めることができたと感じてほしい。そのため、話し合いが子ども中心で行われるように教師の出る場面に留意したい。残念ながら大葉農家の見学をすることはできなかったが、体育館などで大葉ハウスの広さを実感したり、農家のYさん、農協のSさんの協力を得たりしながら、必要に応じて子ども達の思いに伝えていただけるようお願いしていきたい。

4 単元構想 (11時間完了)

○支援 →留意点

市で作られる野菜や果物を知ろう ①②

- 豊川市の収穫のグラフを見て気づいたことを話し合う。
 - ・ 大葉の収穫量が一番多く、花も多く作られている。
 - ・ 豊川の農家の人はどんどん少なくなっている。
 - ・ 豊川で野菜が作られなくなっていくかもしれない。

大葉はどのように作られているか調べよう③④⑤⑥⑦

- 大葉が収穫されるまでにどのような作業があるか予想する。
 - ・ 水をまく。
 - ・ ひりょうをあげる。
 - ・ 虫がつかないように何かしている。
- 大葉ハウスの写真から、大葉農家の仕事について考える。
 - ・ 扇風機で風を送って涼しくする。
 - ・ ハウスの中で温度を管理する。
- 大葉の作り方について大葉農家のYさんに質問する。
 - ・ 大葉を作るのに一番大変な仕事は何ですか。
 - ・ 大葉は1日に何枚収穫できますか。
 - ・ 何人で働いていますか。
 - ・ 大葉を作るのに気をつけていることはありますか。
- 大葉作りをするYさんの思いや願いを知る。
 - ・ 大葉に傷がつかないように1枚ずつ手で気をつけてちぎっているんだね。

規格に合わない大葉はどうなるか考えよう⑧

(本時 8/11)

- 規格に合わない大葉はどうするのか考える。
 - ・ 全部出荷する。
 - ・ 傷んだものは処分する。
 - ・ 少し位大きさが合わなくても出荷する。

大葉作りについて新聞にまとめよう⑨⑩⑪

- 大葉新聞について知ったこと、知らせたいことを「大葉新聞」にまとめる。
 - ・ 豊川の大葉の「ここがすごい!」を書こう。
 - ・ Yさんが大葉を作るときに考えていることを書きたいな。

→ 豊川市で多くの種類の野菜が作られていることに気づかせるようにする。また全国的にも収穫量が多いことに気づかせる。

- 予想を立てるのが苦手な児童Aには、生活科で野菜を育てた経験や「とよかわ」の写真から読み取らせる。

→ 大葉に興味を持たせるために、家で食べる大葉料理を知る活動などを取り入れ、あらかじめ子どもたちから大葉について知っていることと知りたいことについてアンケートをとる。

→ 大葉作業の様子をイメージしやすいように大葉農家、Yさんのハウスの写真を子どもたちに提示する。

→ あらかじめ撮影しておいたハウス内の写真を授業の中で紹介する。

→ 大葉ハウスの中にあるいろいろな装置の写真を見て、どのような理由でおいてあるか予想させる。

→ 時期をずらして育てていること、1つのハウス内で行われていること、収穫時に気をつけていることに気づかせる。

→ 体育館をハウスに見立て、どこでどのような作業をしているか知らせ、ハウスの大きさを実感させる。

→ 1日の収穫量がコンテナ何杯分になるかに置き換えて認識させる。

- 実物の大葉を用意して、よく観察したり、収穫の体験をしたりする。

→ 大葉の収穫から商品として出荷されるまでの繋がりを捉えられるようにコンビニエンスストアの商品の流れを思い出させる。

→ ハウスの写真や資料を活用するように呼び掛けることにより、根拠のある発言を促す。

→ 自分の考えだけでなく、グループ学習をすることで、いろいろな意見を聞いて学び合う機会を設ける。

→ 農協のSさんをゲストティーチャーに招き、農家の方の思いや出荷の様子について話を聞く。

→ ワークシートの中で大切なところに付箋を貼り、新聞の記事4つを選ぶ手がかりにする。

→ 新聞の中に、「大葉作りについて」、大葉農家で働く方たちの「思いや願い」「工夫や努力」の3つの内容が入れられるワークシートを用意する。

5 本時の学習 (8 / 11)

(1) 目標

- ・大葉農家では、信頼のあるおいしい大葉をつくるために、最後までこだわりをもって生産していることを捉えることができる。(知識・技能)
- ・大葉農家の方や農協の方が、生産・出荷に至るまで様々な工夫や努力をしていることを農協のSさんの話をもとに考えることができる。(思考・判断・表現)

(2) 準備 大葉出荷規格のプリント、大葉の実物、ゲストティーチャー(JAひまわりSさん)
ホワイトボード

(3) 活動の流れ

○支援 →留意点 □評価

学 習 活 動	教師の支援と評価
<p>1 出荷できない大葉はどんなものがあったか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気の大葉は出荷できない。 ・がい虫に食べられたものはだめ。 <p>2 この資料が何か予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3枚の大きさが少し違うね。 ・大きさを比べて大葉を分けると思う。 	<p>→どのような大葉は出荷できないか思い出し、本時の学習につなげる。</p> <p>→大葉の規格表といろいろな大きさの大葉の実物を用意し、予想を立てやすくする。</p> <p>○予想することが困難な児童A、児童Bのため、短い言葉で表すよう声をかける。</p> <p>→「規格」という言葉を補足説明する。</p>
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">規格に合わない大葉はどうするのだろう</p>	
<p>3 規格に合わない大葉はどうするのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気のものを買ってもらえないから捨ててしまう。 ・大きさが違うと揃わないから捨てると思う。 <p>4 大きさが合わない大葉や破れてしまった大葉は売ることにはできないのかをグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べることができるものは売ると思う。 ・破れたものは嫌だというお客さんもいると思うから、売らないと思う。 <p>5 グループで話し合ったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷んでいるのは捨てる。 ・大きさが違って食べられるものは売ると思う。 	<p>→規格外は「大きさ」以外にも様々な場合があるため、それぞれについて考えさせる。</p> <p>→「破れないように」「傷つかないように」という大葉農家のYさんの「収穫するときの思い」を想起させ、出荷できないものをどうするか考えさせる。</p> <p>→子どもたちが考えたことや見つけたことは、基本的に認め、自信をもたせる。</p> <p>→グループの話し合いによって、考えを1つにまとめさせ、ホワイトボードに表す。</p> <p>→意見が出ない場合は、自分が買うとしたらどうかなどの視点を与える。</p> <p>□自分の意見を持ち、友達の意見を聞きながら話し合いができたか。(発言の内容)</p>
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">規格に合わない大葉をどうしているかSさんの話を聞こう</p>	
<p>6 大葉が収穫されてからどうなるのかSさんの話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規格外の大葉を売ることがあるんだね。 ・出荷するまでいろいろな人が検査をするんだね。 <p>7 本時の学習のまとめをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな製品にしていることがわかった。 ・捨てるのはもったいないと思ったからよかった。 	<p>→大葉が出荷されるまでの農家の方や農協の方の思いを話していただくようお願いする。</p> <p>○聞き取ることが困難な児童A、Bのため、Sさんの話のキーワードを書画カメラを活用して拡大提示する。</p> <p>→わかったことや新しく知ったことを書くよう声かけをする。</p> <p>□大葉が出荷されるまでの様子をつかみ、生産・出荷に関わる人々の努力を理解することができたか。(ノートへの記述)</p>